

七十年代のスカウティング

副団委員長 杉原 正

世の中は、今や断絶ばかり、身近かな親子の關係から政治家と国民、そして国と国との間柄と、いろいろな面での断絶が存在しています。私たちが、好むと好まざるとにかゝらず對話の欠如しているこの断絶の時代に生きていくことは明確です。しかも、このことは、個人個人のかゝわりにおいて、各自が解決その努力をしない限り、七〇年代は、ますます断絶の溝が深くなっていくことでしょう。

古くから師弟の關係は、他人と他人の間柄としては、これ以上深く、また美しく、そして厳しいものはないとして他の追従を許さない存在でした。しかし、今や教育界にあっては、断絶と不信は、大学問題から高校とエスカレートしています。

人間關係の絆の強さを誇っている我がスカウティングにあっては、その影響を少なからず受けています。従来のような親分・子分的なつながりだけであっては、時代の適応性を欠くことになり、また、その内在する体質の改善を怠っていたともいえます。

スカウティングが、青少年の健全育成を目指しているのにもかゝらず、青少年が不在であったり、また、その育成について大人の関心が低いことに気が付きます。

誰かが、子供たちを良くしてくれる。自分の子供は、誰かにお願ひすれば良くしてくれるといった考え方が余りにも多いことをみるにつけ、大人は、ご両親は、一体何をしているのかと憤りを感じるのは私だけではないと思います。

人間形成、いわゆる人づくりの基礎が、家庭に在ることを忘れ、子供の教育を、自ら放棄してしまつたならば、青少年の健全な成長は望み得ないでしょう。

教育に対する自信の喪失と、明確な指針を失いつゝある現状では、他力本願の考え方も止むを得ないことなのでしょう。

科学技術の驚異的な発展と共に、人間疎外の問題は、七〇年代の深刻な課題となるでしょう。いかに人間らしく生きていくかが問われる時代になりつゝあります。何をもちて人間らしくというか、何を生き甲斐とするか、何が幸福な人生かを問われるでしょう。青少年の諸君にも、一般の大人に対しても、物質的なものだけが幸福を支配することにはならないことを知ってほしいと願っています。

その使命の一端を荷負う七〇年代のスカウティングは、狭い視野と、その範囲から脱皮し、家族、近隣社会ぐるみのスカウティングに発展しなければならぬと思います。

親と子との關係を基礎とし、その背景をもつたスカウティングでありたいと、昨年度より新しいカミングが、スタートしました。このことがカブからローバーまで一貫し、波及することが、七〇年代のスカウティング開発の道であると信じます。

お父さん!! お母さん!! あなたの力が、今一番必要な時なのです。その決断と行動をするには、あなたの期待するような青少年の健全な育成はあり得ないでしょう。スカウティングへの参加とご協力を期待いたしております。

ぼくは今、カブスカウトに、はいったばかりだ。なぜぼくは、カブスカウトに、はいったか。おかあさんが「カブスカウトに、はいれば、いろいろのことを、おぼえるからですよ。」と、いったからだ。ぼくは「ちばんはじめ」「どんなことをして、どんなことにやくだつか。」それをしりたかった。ある土曜日、はじめてみた時、むねがどきどきした。はじめて見た時、見学にきた子はみんなしんばいそうなおおだった。でもそのつぎの土曜日みんなとおあつた時は、しんばいそうなおおが、わらっていた。にやうたいしきは、カブのグリスマ社会だ。はじめ、カブのやくそくをいった。その時、ぼくは、「大学生になったら、カブのリーダーをやるぞ。」そんなことを思った。それから、ネッカチーフとチーフリングをもらった。ぼくは「やっつと、カブの仲間いりになつたんだな。」と、心の中で、おもった。せいふくをきて、はじめてかいかいしきにならんだ時は、むねがどきどきした。ぼうしとりのゲームもおしえてもらった。とてもおもしろい。こんど友だちがきたから、そのゲームをおしえたいくらいだった。

一月十日、おもちつきをした。

もちは、とてもうまい。だが、おろしも

ちは、たべなかつた。それは、だいきらいだからだ。やしろうくんは、でっかいもちを口に三つも入れた。ぼくは、「ごりらの、むすこやい。」と、からかってやった。やしろうくんは、まっかになつておこった。おいかけてくるので、にげた。やしろうくんは、おいつかないのであきらめてしまった。

カブにいくと、いろいろのことをするし、ゲームもおぼえるから、カブにいくのがまちどうしい。こんどいくときは、どんなゲームをするか、なにをおぼえるのか、とて

僕は今……

もたのしみだ。だから、ぼくの今のねがいは、五十才になつても、六十才になつても、たいちやうをして、そしてしぬまでいろいろなことをおぼえたい。



こないだの集会の時、松田さんから、「ぼくは、今……」とゆう題で、書いてくれといわれて、ぼくはこまかつたが、つぎのようになびまつぶしを思いついた。

こないだの集会、こないだとは、先週のことと、先週とは、昭和四十五年一月十七日でおわると書いていけば、なにが書くことがうかぶかと思つたが、だめだった。

僕は今、このむずかしいむずかしい字をたくさんつかつて、(ちよつとまちがえたり)作文を書いている。僕は、作文のためをい知恵をしぼつてかいている。

べつに、こんをぐちみたいのことを書くつもりはなかつたが、今思いついたことを書いたままでのことである。書こうと思えばぐちぐらいいつでもかける。つまり、おぼえがいいから、きよくたんにいえば、生まれたとき、病院きたなかつたこととゆうのは、うそであるが、とても、自分でかわいと思つている。

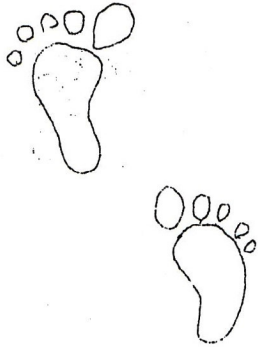
そんなことかいているうちに、たねがきれて、書けなくなつてきた、でも、あともうすこし、もんくを書いてからやめたほうがいいと思つてもうすこし書くことにした。しかし、これを、カブスカウトの丸山までと書いてあるが、これを、はたした時、

ほくは、口の中にいれるにちがいないと思

り。なぜかといゆと、ポストのように、口が大きいからである。しかし、こんなこと書いて、あとでころされなければいいと思った。がだんだん終わりが近くなったので、しっている漢字も、ひらがなでかいていまいぼどうれしくて、いそいでいる。さいしょは、八百字も、書けるかと思ったが、今になってみると、八百字なんて、なんて思ったが、むだばなしがはいったので、ぜんぜんまとまらないで、読んだ人がなにか書いてあるかわからなくてもおしわけない。

(編集者として、この原稿をのせるべきか、のせざるべきか、これが問題である……)

しかし、スマイルは四団全体のもの、私個人の一感情は除外せねばと思ひ、涙をのんで、のせることになった次第……。



杉田憲彦

僕は今シニアスカウト。そこで、カブ・BSとは違へた形式のもとで活動している。一口に言えば、カブ・BSのとっているパトロールシステムに対し、シニアはメイトシステムと言ひ形をとっている。

わかりやすく言えばパトロールシステムは、班長、班員で一つの班を編成し、リーダーの指導のもとに活動する形である。

僕達のとっているメイトシステムとは班をなくし、メイトを選んで、その人を中心に活動をしている。ただし、メイトは誰と決まっていな。誰もメイトをやる。

僕達は、自主活動と言ひものを重んじている。従つて集会の年間プログラムはずべて自分達で立てる。

つまり、誰かが、ハイキングをやるうと提案してプログラムにとり入れられたとす。そうすると提案者がメイトになつて計画を立て実行するのだ。従つて何かをやるたびにメイトが代わるわけだ。だからメイトシステムをとるには隊がしっかりと一つにまとまっていなければならぬ。そして各個人の責任感、信頼感がとても大事なのだ。だれがメイトをやつても、その人を信頼し、協力しなければ成功はしない。

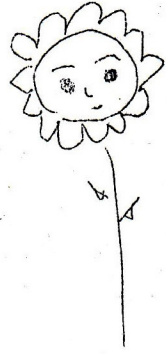
又、自主的活動をより充実させるために

は各個人の技能が大切になつてくる。皆が高い技能を身につけていれば高度なプログラムを立てても確実にこなす事ができる。今、僕達は、メイトシステムをしつかりと、充実したものにしようとして努力している。今までに何度も会合を開いて話し合つて来た。実際にメイトシステムにもとつた活動もやっている。そしてどうやらまとまりがついて来た。だが問題点はまだいくつもある。

新しくはいつて来たスカウトにはメイトシステムは理解しにくい。BSにおいて自主活動もあまり行われていない。だから大げさに言えば、別世界へとび込んで来るような感じなのだ。集会の形が全く違う。そしてすべて自主活動だ。何もかも自分達でやらなければならぬ。リーダーは何も言つてくれない。

僕はそれに慣れて理解できるまで一年近くもかかった。そして今度は、新人スカウトにそれらを理解させ、ひっぱっていかなければならぬ。大変だ。頑張らなければ。





青年隊 松野光成

僕は今、○があつて△があつて「(角)があつて凸凹があつて、変な所にあります。朝起きて、夜寝て、殊にそれが変わつたりしてそのうちボケーとして、それから一体何があるのですよ、全く……。

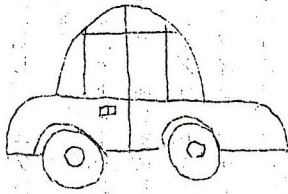
食べるってことが好きでしたが、明日から食べるのやめようと思つてます。死んじやうかな、それでもいいや。

日曜日買物へ行つて、四時から人に会つて家に帰つて粘土遊びして、彫刻をんで厄介なものなんて始めたんだろうと思つて！火曜日、昨日の続きをやつて、水曜ある人のお家へお邪魔して、帰つたのは十時過ぎ。金曜日、つまらない日、変なもの思い出した、変な、変じゃない、大事な「スマイル」のこと思い出して書いておきます。早く書かないと土曜日になっちゃう、急いで、急

い……。

金曜日、木曜日の次、土曜日の前、日曜日の前々日。金曜日どういう意味のある日か、そして自分自身にとつては何がある日なのか、今まで過ぎ去つた金曜の中にどれ程の事が深くもれているか、それは金曜日に限らず、全ての日々に言える事です。そうなんです。日々が大事な日、自分と他人との違い、そんなことを考えてみます。今日、明日、そしてその先の日、過ぎていった日、楽しかった日。あの日、この日、もう一度持ちたい日、そして多くの事を理解した日。

そんな事考えてる。今、僕は……。



朝めをさましたら思ふこと
たとえその日が晴れていても
くもっていても、雨であつたとしても
今日はきつといいことがあるって

つまらなかつた日

ねむる前によく自分にいいきかせること

今度はきつと自分が楽しくしてみせるって

悲しいことのある日

思ひきり泣いたあとで

そつと口に出して言つてごらんをささい。

明日はきつといいことがあるって

父兄雜感

町島 節子

成人式の祭日の午後、子供に誘われて、神宮通りのキデイランドに足を運びました。神宮通りは二十才になった青年男女が、それぞれに腕を組みながら、又は女子同志の華やかなお振袖に行き交り、晴れ姿を見る時……、我が昔二十才なりし時の……敗戦直後の暗かった、辛かへた當時を回想する時……、平和で自由な世界に生きる現代人が本当に羨やましく思いました。

又我が子があと十年先に迎えるその時を想像せざるを得ません。

そして十年後の世界が又一段と変化した時代を迎える事は事実であり、どの様な「人間」に育っている事だろうかと反面不安が押寄せて来ます。性革命とか眼に入る物、聞くものがテレビの画面を通していやでも家庭に飛び込んで来る現実、あやし気な画面には戦前の教育を受けたものとして静視に耐えざるもの数々、只々子を持つ親としてうるたえる事のみ多く、親としての様に対処すべきか、一日も早く進歩的感覚を吸収し対応すべく心掛けねばならな

い時代……。

而し末だオモチャ屋の店に床力ある幼い我が子を見る時少なからず「ホット」します。

オモチャ屋の店頭には竹馬の完成品が店売され定価も九五〇円とまず千円に五十円のおつりのみ、物価高に驚かされます。それをポイと千円札を出して買ひ子供、私共子供に想像も出来ない値段に驚き乍らもまつ子供より私の方が魅力を感じてしまいました。

青い竹は都会ではお正月にでもならないと本物にお目にかかれなため、郷愁を感じつつプラモデルと竹馬を買って家路についた時、又懐かしく我が幼き日々を思うばかりです。当時は竹は竹やぶに入って切り取り木をけづって針金でゆわき、女の子はやはり男の子のたくましい作業振りに見ほれていたものでした。実は本日始めてデンマザーとして第一日をスタートいたし、カブスカウトのたくましくも、律々しく且フリーダーの方々とはスカート達との融和感をほのぼのと感じつつ力強い日本男子を戦争のない平和な世界に、大きく羽ばたいて頂き渡いものと切望して止みません。

報告

団会議 十二月十三日 出席者十二名

一、各隊報告

一、ジャンボリーについて

一、もちつきの日

一、合同リーダー会の件

一、月の輪上進の件

団委員会 十二月二十日 出席者十六名

一、各隊報告

一、ジャンボリー報告

一、もちつきの日

一、冬期用テントの件

一、上進に關しての諸問題

団委員会 一月十七日 出席者十四名

一、各隊報告

一、シニマ雪中キャンプの説明

行事報告

四団合同もちつき会一月十日

港区青年会館において

。リーダー、父兄新年懇親会

。日本ジャンボリーについて

期間八月六日 八月十日

出発 八月五日 A・M九時

解散 八月十一日 A・M五時

四団割当人数

スカウト 二十八名

リーダー 四名

今回は二二九団（七名）と、四団との
合同隊になります。

。ジャンボリー委員

人事報告

。少年隊副長 述 啓一さんと

。少年隊副長 千代 晴康さんは

一月十七日で退任されました。

どうもありがとうございました。

編集後期

寒い寒い二月

グルブルふるえる二月

こがらしのふく二月

それでもスカウトは元気

いっぱい!!

風をきってほほを

赤くそめながら 走る走る!!

もうすぐ暖かい春がくる

ほら!! そこに!!

今年もどうぞスマイルに御協力下さい。
一生けん命やるつもりであります。

おしらせ

スマイルでは

只今原稿募集中

何かございましたら

年少隊の丸山まで

スマイル 第九十五号

発行日 昭和四十五年二月二十八日

編集人 杉原正

発行所 港区赤坂一―一三―一六

日本ボーイスカウト東京四団